

## 呉まちなか公共空間デザイン会議（第7回）議事録

- 1 日時 令和8年5月18日（月）10時30分から11時40分まで
- 2 場所 呉市役所本庁9階  
呉市・広島大学Town & Gown Office

### ●会議の流れ

- 1 開会
- 2 委員紹介（資料1）
- 3 議事(1)について土木総務課から説明（資料2）し，意見交換
- 4 議事(2)について土木総務課から説明（資料3）し，意見交換
- 5 議事(3)について土木総務課から説明（資料4）
- 6 閉会

### 【質疑・意見交換1】

呉まちなか公共空間基本デザインについて（資料2）

#### ○意見1

まちなか公共空間のみでなく，商店街・駐車場など周りとの関係を改めて考えた。

車を利用して訪れる方の駐車場について，HUB施設や図書館の利用に応じて駐車場料金のサービスがあると，たまたま訪れる方を空間内へ誘導できるのではないかと思う。

また，例えば，商店街エリアを含めたウォーキングコースを設定することや，歩くことでポイントが付与されるアプリを整備し商店街等での利用の連携をすること，商店街と連携したイベントの開催など，商店街エリアと連携した使い方をイメージして整備を進めていけると良いと思った。

#### ○意見2

資料2の29ページに追加された情報発信の内容について，マネジメントの考えとして取り入れたことが良いと感じた。

情報発信の方法は，SNSを活用した方法もあるが，今後，二つのHUB施設を整備した際には，この施設から発信する情報もあると思う。

この二つのHUB施設の機能について，それぞれの役割を整理しているが，情報発信の面においては，双方の施設で同じ情報が平等に揃うことが良いか，または，施設間で棲み分けすることが良いかなど検討していく必要があると思う。拠点としては必要な施設であると思うので，情報発信の面で効果的な運用ができると良いと思った。

### ○意見 3

情報発信の意見に関連して、当校の学生が呉市の活性化を目的としてインスタグラムのアカウントを開設し、呉市のスイーツ等を紹介している。学生にまちなか公共空間の計画の取組を紹介したところ、情報発信をしたいという返答があった。市としての発信のほかに、市民として発信する形での広報があると思うので、当空間の取組において、情報発信のコラボレーションができると良いと感じている。また、学生の学びにも繋がると思う。

資料 2 の 2 5 ページの照明の内容、また、次の議事の水辺空間の活用実験にも関連する内容であると思うが、夜間にイベント等で空間の活用をする際に、電気自動車の新しい使い方を学べる機会になると、なお良いと感じた。次世代の電気自動車では、車のバッテリーを利用して家電等を使うことができるようになっている。イベント時などに自動車メーカーなどと連携できると、企業としてもアピールの場となり、市民にとっても学びの場になると思う。

### ○田中座長

市だけでなく、市民から情報を発信していく機運を高めていくことは重要だと思う。

### ○意見 4

HUB 施設の機能と、次の議事のもぐもぐぱーくに関わる内容となるが、二つの HUB 施設が位置するそれぞれのエリアでは、滞在者や利用者の層が異なると思う。例えば、中央公園 8 ブロックでは、親子連れの利用が想定され、図書館前では一人でゆっくり過ごしたい利用者が考えられる。

例えば、食べ物でいえば、8 ブロックでは、ポテトなど子どもが好むもののニーズが高いと思われるが、実証実験（もぐもぐぱーく）の中で各ゾーンのニーズがつかめてくると良いと思う。

そのほか、商店街の情報を HUB で発信すると想定した場合でも、利用者層に応じて、お店のピンポイントの情報を求める場合や商店街を含めまちなかの回遊を楽しみたい場合など、利用者層によって欲しい情報が変わると思うので、HUB の運営に当たっては、同じ情報がありながら、利用者層に応じた情報発信をして、周辺地域を巻き込んでいくと良いと思った。

○田中座長

色々な使い方ができることがこの空間の特徴であると思うので、各々のエリアが際立つような工夫が求められると感じた。

○意見 5

公園や街の中で、何がどこにあるのかが分からないという場面がよくあると感じている。資料2の28ページには、共通サインについての記載があるが、サインはとても重要で、色やロゴによって遠くからでも認識できることが求められる。また、この空間だけでなく、呉駅周辺エリア等呉市全体で情報案内や誘導に関する共通のサインがあるとエリアのブランド化にもつながると思うので、取組を進めるに当たってサイン計画を考えていくことも重要であると思う。

○意見 6

前回会議で公園や堺川の生き物の情報がわかると学びの場となって良いという話をしたが、今年度、当校の卒業研究のテーマの一つとして堺川の生き物調査を実施する予定である。現地を歩くと、堺川が汽水域でもあるため、海の生き物も多く、鳥類なども確認できた。調査後には生き物マップを作成するので、完成後には是非活用いただきたい。

○意見 7

呉市では、呉駅周辺と中通りエリアをどうつないでいくかが長年の課題となっていると感じている。こういった中で、このまちなか公共空間自体が呉市の名所・目的地となれば、おのずとエリア全体が活性化していくと思う。

また、呉駅や海側の集客施設からの人の流れを生むように、図書館周辺に近いエリアはこのような観点も取り入れながら取組を進められると良いと思う。

そういった点では、ここのネーミング（愛称）を設定したり、市民の方にPRする際にも、公園環境が良くなるだけでなく、まちの活性化を図ることが目的であることを併せてPRすると、市民全体がもっとわくわくするプロジェクトとなると思う。また、図書館前のHUB施設には、呉の地酒が飲めるなど、人の流れを生むような取組を取り入れていくことも今後検討できると良いと思う。

加えて、先ほどの生き物の学びの場の意見については大変興味深い。水族館などハード施設をつくると多くのお金がかかるが、例えば、スマートフォンやスマートグラス（眼鏡）等に対応したアプリを開発するなどデジタル技術を導入し、この空間を歩くとそういった情報を見ること

ができると思うと思った。

○田中座長

まちづくりの視点として、この空間がエリア全体の中でどういった位置付けなのかをしっかりと意識しながら、セントラルパーク、まちの中心としてエリア全体を考えながら取組を進めていけると良いと思った。

○意見 8

呉駅と商店街をつないでいくことは、長年の課題でありこのまちなか公共空間の取組には非常に期待している。

資料 2 の 1 4 ページのどんぐり複合遊具について、多くの子どもに使用してもらっているが、近隣自治体の大きな公園では、もっと大きな遊具が設置されており、呉市から車で他都市へ出かける方も多いと思う。多くの親子をこのエリアへ誘導しようとする、エリアの大きさも考慮して、将来的には、違う遊具を含めどんぐり複合遊具とは異なる何かを持ってくることも検討しても良いと思った。

○意見 9

(議事(2)の意見交換を受けて)公園のシンボリックなもの、イチオシがあると良いという意見があったが、資料 2 の 1 4 ページにウェルカムゲートの記載がある。先日、神戸市の明石海峡大橋の下にある公園で「K O B E」のモニュメントを見かけた。それを観察していると、日本人も外国人も多くの方がそこで写真撮影をしていた。例えば、このウェルカムゲートについて、呉氏と手をつなげるモニュメントや顔出しパネルなど呉市を感じることができるものがあると良いと思った。

○田中座長 (全体コメント)

本日は運営に係る取組について多くご意見をいただいたと思う。基本デザインとしては事務局案のものでとりまとめを行い、その後の運営がさらに重要になるというご意見であったと思う。

**【質疑・意見交換 2】**

呉市まちなか公共空間利用促進事業について (資料 3)

○意見 1

資料 3 の (2) O U R S 倶楽部について、公園全体が対象地となるものか。売店建物も使うのか。

○事務局（神垣土木部副部長）

北側エリアの中央公園 5 から 8 ブロックまでのエリアを対象とすることを考えている。8 ブロックの売店建物も利用できる。

○意見 2

屋内外で多様な使い方ができると思うので、まずは多くの方に使っていただくことが大切だと思う。使っていただくためにも、広報をしっかりと行ない、多くの方に知っていただくことが大切だと思う。

○意見 3

資料 3 の (2) O U R S 倶楽部について、以前、広島駅の地下で音楽演奏や民芸品の物販のイベントがあったが、一体感がありとても賑わっていた。イベントなどにおいて出店者等のプレーヤー間の一体感は大切だと思った。

この度の制度においても、市とプレーヤーのつながりだけでなく、プレーヤー間のつながりが生まれると良いと思った。ゲームの話になるが、ディスコードというアプリを使って、同じゲームをする人同士で自由に会話や情報共有をしている。利用者が簡単につながり、部外者が入れないような機能を有している。このような形で、アプリ等を介して、プレーヤー間のコラボレーションや出店の調整をしやすい場ができれば、市が間に入ることなく、つながりが自発的に生まれると思う。また、市の手が離れても自走できるものとなると思うので、こういった交流の場が生まれると良いと思う。

○意見 4

資料 3 (1) もぐもぐぱーくと (2) O U R S 倶楽部について、インスタグラムや市政だよりなどで情報をどれだけ発信したとしても、情報を受け取る側が自分で情報を取りに行く、または、賑わいが現地で見えるようなものでないと、情報はなかなか入ってこないことが多いと思う。

先ほどあった意見のように、市民からの情報発信も大切で、例えば共通のハッシュタグの設定など市民が参加しながら発信できるような環境がつかれると良いと思う。

また、もぐもぐぱーくでは発信力を持つ方に取組の発信をしていただいていたが、例えば、観光特使や地域おこし協力隊の方など情報発信力を持っている方の協力を得ることも大切だと思う。

もう一点、ハンドメイドの物販等でマルシェに出店されている方々は、様々なマルシェと一緒に出店する機会が多く、顔見知りの方が多い。

この方々が個人で出店・活動等をするよりも、複数の方が一斉に出店する方が賑わいや情報の発信力の面でも、有利であると思う。このため、例えば、「マルシェをするのでどなたか一緒にやりませんか」と出店者・プレーヤーが集まって何かを行う機会を仕掛けていくと、活動する側も参加しやすい上、その方々のネットワークで情報が派生的に広がっていくと思う。また、この周辺で定例的に行われているイベントと同時に実施する機会を設けると、この取組を認識されるスピードが上がると思う。

#### ○田中座長

やっているところを見ていただくというフィジカルな広報手段も含め戦略的に広報を展開できると良いと思う。

#### ○意見 5

情報発信について、子どもと出かけるときなどに、ピンポイントで情報を検索することはあまりなく、「呉市」などの地域名で大まかに調べることが多くある。市外からの来訪者も想定する場合は、「呉市」での検索性をあげていくと良いと思う。

また、普段情報の発信に携わっているが、情報発信をする上で、例えば遊具について「ふわふわドーム（トランポリンのような遊具）」など目玉、イチオシとなるような施設があると情報発信もしやすいと思った。

#### ○意見 6

資料 3 の (2) O U R S 倶楽部について、倶楽部メンバーと倶楽部スポンサーに加え、学生が学びや様々なチャレンジができるような「学生メンバー枠、プロジェクト枠」のようなものがあれば良いと思った。

今の高校生や大学生は、与えられたもので学ぶのではなく、場の提供を受け、その場をどう活用するか、どう動かしていくか、そのプロセスを学ぶ機会が多いと感じている。例えば、呉市としても、この空間は学生の学び・研究の場に使えるということを学校に直接 P R していくと良いと思う。学生が参加すると、この空間を整備して終わりではなく、その方々がここに愛着を持ち、将来の関係人口のような人を生むことができると思う。是非、学生を巻き込んで、活動を展開できるような仕組みにしていきたい。

#### ○意見 7

高校生や大学生の学びは「実際にやってみる」という方向性へシフトしており、科目として探求の授業がある。高校の先生も取組の内容に困

っているという話も聞くことがある。例えば、「この空間を盛り上げるために何かやってみよう」など命題があれば、何か学生が取り組めることもあると思う。社会の現場に活動の場があると、ゴールをイメージし易く、自己肯定感も上がると思う。

○田中座長

呉市の高校生や大学生から地域のために何かしたい、発表の場が欲しいとよく聞くので、そこをつなぐことができると良いと思った。

○意見 8

前回会議でも同様の発言をしたが、屋外のイベントを仕掛けて、取組の継続性を高めていくためには、雨天の際の対応ができると良いと思う。将来的にはHUB施設の利用も考えられるが、そのほか、市役所のホール等の利用や商店街の店舗などが利用できると取組の継続性が高まると思うので考慮をしていけたら良いと思う。

○意見 9

資料3(1)もぐもぐぱーくについて、公民がうまく連携した事業と思う。広報の面でフォロワーを増やすこと、事業者・プレーヤーと連携して情報発信ができると周知が広がりやすいと思う。

取組全体について、先ほどのご意見のサインの話にも通じるが、広報の面においても、可愛い・格好いいアイコンなど一目見ればわかるもの、直感的に魅力を感じてシェアしたくなるものがあると良いと思う。前回会議でもお話ししたが、呉市にも建築家が多く活動しており、また、広島駅の商業施設であるミナモアのロゴを作成されたデザイナーも呉にいらっしゃるのので、そういった方々を巻き込んで、目的・コンセプト・ストーリーに紐付いた気持ちの入ったデザインを整えるなどデザイナーの力を活用できると良いと思う。

(3)水辺空間の活用実験は、(2)のO U R S 倶楽部も巻き込んで実施するものか。

○事務局（神垣土木部副部長）

詳細は決定していないが、一つの可能性としてあり得ると思う。

○意見 10

水辺空間の活用実験は、公で環境を整え、民で活用する仕組みであると思うが、その場を利用するユーザーのことも考えながら、この取組のビジョンに紐付いたイベントを効果的に実施できるプレーヤーを上手

くコーディネートできると良いと思った。

#### ○意見 1 1

資料 3 の (2) O U R S 倶楽部について、運営主体はどこが行うのか。また、管理・運営については将来どう考えているか。

#### ○事務局（神垣土木部副部長）

O U R S 倶楽部の運営は市で行う。また、公園の管理については、現在は、市の直営管理となっているが、当会議でご意見をいただいているパークマネージャーの取組などを実施するために、今後、指定管理者等を含め運営手法について検討していきたいと考えている。

#### ○意見 1 2

今後この空間の運営を行うに当たり、「使い倒す」という視点で、先ほどもご意見があったように、プレーヤーをつなげていく取組を早期の段階で始めていくと良いと思う。

資料 3 (1) のもぐもぐぱーくについても、事業性にもよるが、例えば、出店範囲を広げる、また、商店街関係者によるイベント活用などを行いながら機運の醸成を図っていけると良いと思う。

#### ○意見 1 3

資料 3 (1) のもぐもぐぱーくについて、ある事業者の話を伺う機会があった。この度の取組が実験的な取組であるため、仕方ないとは思いますが、一日だけの出店ができず、期間中に複数回の出店が必要な条件となっていると伺った。使うことを進める視点では、一定の条件を設けながらも、出店しやすいような条件を今後検討していけると良いと思った。

もう一点、情報発信の面で、この度の会議の情報などを呉市のホームページで確認しようとする、情報にたどり着けず、直接キーワード検索を行うしかなかった。呉市全体の話であるが、呉市のホームページは「呉市」で検索すると必ず上位にでてくるので、ホームページ内で検索性が上がると、情報が伝わりやすくなると思った。

#### ○意見 1 4

公園は、休日に出かけて子どもと遊び、キッチンカーで食事を購入するといった非日常のシーンをつくる側面があると思う。一方で、日常のシーンも重要であると思う。呉市では高齢化率が高く、例えば、毎朝ここでラジオ体操をするなど、高齢の方々が足を運びやすい日常の取組があれば、世代間のつながりも生まれるきっかけにもなると思う。

○田中座長（全体コメント）

情報発信について戦略的に行うことやデザインの力を利用することが重要であるとのご意見が多かったと思う。また、プレイヤーの横のつながりが重要で、それが先々で活動のプラットフォームとなってくるものであるため、学生も巻き込みながら、使い倒す気運を高めていくことが必要というご意見であったと思う。

以上で閉会